

当期の概況（連結）

前年下期を底に上向きつつありますが、前年中間期と比べると厳しい状況となりました。売上高につきましては、通信を中心に前年中間期比14%減の2,506億円となり、損益につきましても、売上高の減少により、営業損益は前年中間期9億円の利益に対して105億円の損失、経常損益は前年中間期33億円の損失に対して157億円の損失となりました。中間純損益につきましては、事業構造改革の一環として引き続き人材の流動化およびスリム化を推進して特別退職金を計上し、前年中間期96億円の損失に対して115億円の損失となりました。

セグメント別概況

情報

企業のIT投資の抑制などによる厳しい環境の中、コンビニATM、銀行ATMの下期へのずれ込みやプリンタ事業における円高の影響などにより、当中間期の外部顧客向売上高につきましては、前年中間期比13%減の1,343億円となりました。営業利益につきましては、固定費削減および海外生産の加速によるコスト低減もあり、前年中間期22億円の利益に対して35億円の利益を確保しました。

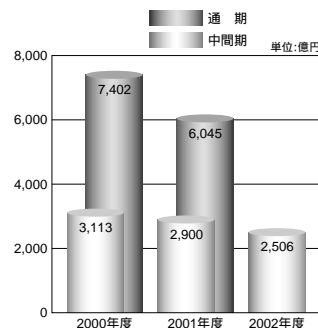
通信

世界的に通信機器需要の冷え込んだ状況の下、IPネットワークなどを中心に積極的に営業活動を展開してまいりましたが、NTTなどメガキャリアの既存システム投資抑制などの影響を受け、当中間期の外部顧客向売上高につきましては、前年中間期比27%減の377億円となりました。営業損益につきましては、大幅な売上高の減少により、前年中間期18億円の損失に対して71億円の損失となりました。

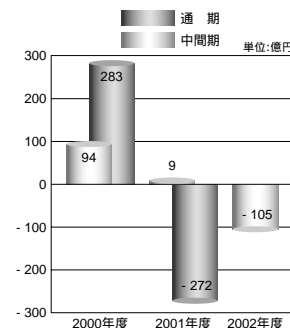
電子デバイス

半導体市場は前年下期にユーザーの在庫調整が終了したことにより底入れしたものの需要が低迷し、当中間期の外部顧客向売上高につきましては、前年中間期比12%減の585億円となり、営業損益につきましては、前年中間期60億円の利益に対して16億円の損失となりました。

売上高

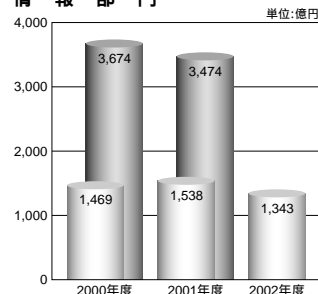


営業利益

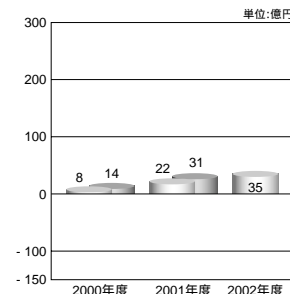


外部顧客向売上高

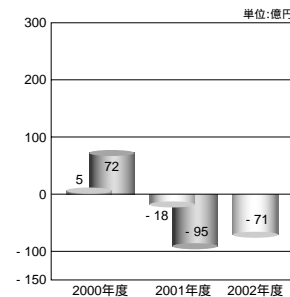
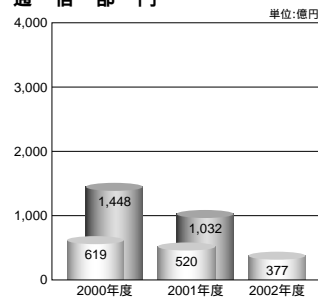
情報部門



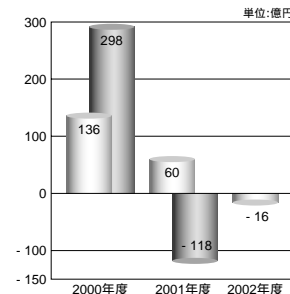
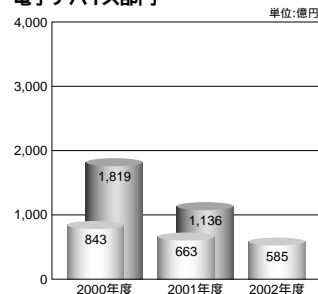
営業利益



通信部門



電子デバイス部門



(注) 1. 2000年度、2001年度につきましては、2002年度ベースに組替えて表示しております。
2. 上記セグメントに含まれない、その他セグメントがあります。